

質疑応答：自動車稼働停止による来期の影響について

質問者：自動車の稼働停止による来期の影響はどのように考えていますか？

清水：こちらは大変難しい質問であると思います。今回の検査不正で発生した事象により考え方が違うと思いますが、来期にずれ込むものも若干あるのではないかと考えています。

しかしながら、各ボデーメーカーあるいは部品メーカーの方と情報交換をする中で、比較的速やかに、年度内には回復できる工程もありそうだという話も出てきています。ものによっては来月ぐらいから徐々に回復するのではないかと考えています。

質疑応答：セミコンダクター・エレクトロニクスの来期の見通しについて

質問者：セミコンダクターやエレクトロニクスの来期の見通しはどうか？

清水：在庫調整に手間取ったメモリについては、来期に向けて新しいプロジェクトが始動し正常化に向かっていくこともあり、すでにこの今年度末から増員を頂戴している状態です。

また、熊本エリアにおいても今年末に向けて出荷がスタートするため、堅調に推移するのではないかと考えています。

エレクトロニクスメーカーでも、時間外勤務がすでに正常化しつつある工場も増えてきたため、来年度は今年度よりも状況的には明るいのではないかと見立てています。

質疑応答：人材育成について

質問者：人材育成は先行投資になると思うが、来期は成長へ向けた投資フェーズとの認識でよいのか教えてください。

清水：今年、お客さまのいろいろな事情により育成できなかったエンジニア、あるいは高技能者を来期に向けて育成しておかないと、2026年、2027年の大型受注になかなか結びつかないと考えています。今年少し停滞した分、来期は当初計画より強めに育成の投資をしていこうと考えています。

今のところ、まだ概算ですが、1,800名程度のエンジニア輩出を準備しています。

質疑応答：蓄電池関連の今後の展望について

質問者：日総EVテクニカルセンター関西（EVTC関西）』の開設など、蓄電池関連にこれから注力していくという話ですが、そこに向けた今後の展望やコンソーシアム参画の狙いを教えてください。

清水：こちらにはいくつかの狙いがあります。まずコンソーシアム参画の狙いは、大型バッテリー工場の稼働が2026年後半から2027年に予定されているため、そのエリアで育成するための仕組みがどの程度必要であるかを確実にキャッチすることとです。そして蓄電池メーカーが、自社で準備する人材と外部に委託する人材を切り分けるといったことが判明しました。これによりある程度の目算がついたため、今回、滋賀県にEVテクニカルセンターを開設することを決定しました。

ここからは、お客さまとカリキュラムについても十分に打ち合わせをし、実際に製造装置を入れながら、計画的に育成していくフェーズとなっています。

質疑応答：人件費上昇の影響について

質問者：日本全体で賃上げの必要性が叫ばれていますが、派遣先で人件費が上昇した場合に、御社にはどのような影響が見込まれますか？

清水：政府、経済界そして労働組合も一致した意見として、ここからの景気回復の大きなポイントが賃上げだという話があります。

今、まさに春闘の真っ只中だと思いますが、我々は一貫して、働いている方々の賃上げをしていくスタンスをとっています。このことは受注の単価アップにもつながります。いわゆる収益率が粗利となり、大きく改善するというよりも単価を上げていくことによって収益額が増えていきます。本人にも昇給というかたちで還元するとともに、我々にとってもプラスに作用するという見方をしています。